



フェンシング女子サーブル 全日本選手権 初優勝

強いヒロイン誕生
江村美咲選手(法3)

次は2020年
東京五輪メダル獲得

中央大学フェンシング部の江村美咲選手(法2、大会時)が昨年12月の全日本選手権個人戦女子サーブル決勝を制して初優勝。2020年東京五輪で金メダル獲得を目指す、ニューヒロインは「最強でありたい」と意気高らかだ。

2018年12月9日に行われた日本一を決める同大会、各種目個人戦決勝の舞台は「ロミオとジュリエット」などシェークスピア作品などを上演する東京グローブ座(東京・新宿区)。

英国グローブ座を模した独特の円形劇場で、3層からなる観客席はステージを大きく包み込むようだ。

場内照明を観劇同様に絞込み、ピストと呼ばれる試合用コートだけをライトアップ。舞台奥の大型スクリーンには、激しく動く出場選手の心拍数を電子表示した。

同競技日本初の五輪メダリスト(2008年北京大会・銀、2012年ロ

ンドン大会・銀)で日本協会現会長・太田雄貴氏のアイデアだ。

女子サーブル決勝は終盤に入っていた。江村選手は、次の1本を取れば初優勝、念願のタイトル獲得だ。チャンピオンポイントを迎え、秘めていた作戦を実践した。

相手の攻撃をかわしながら、少しずつ前へ進む。長さ14cmのピスト。一步一步前進、じわじわと距離を詰め、ピストの最後尾近くまで追い詰めた。

有利な展開となって、江村選手の剣が初めて動いた。相手が避けよう

として生じた一瞬のスキを逃さずに斬った。審判器にランプが点灯し、ポイント獲得。15-9(15点先取)。日本一と呼ばれるようになった。

「打ちたくて、ずっと、我慢していました」

渾身の一撃には、ためていたパワーがあった、磨いていたテクニックがあった。

前年は準優勝。中学3年生から日本代表として注目されながら、手が届かなかった栄冠を得た。

「これで自信になりました」

学業と両立させながら進めてきた

女子サーブル決勝で攻める江村選手(左)
(代表撮影)



フェンシングの道に間違いはなかった。

相手選手は中大のチームメイト、向江彩伽選手(理工2、大会時)。中大勢による決勝だった。

互いに頂点を目指した戦いは昨年3回あった。10月の関東学生選手権、11月の全日本学生選手権、12月の全日本選手権。江村選手の3戦3勝だった。

「お互いによく知っています。(全日本選手権の)試合前にはどう戦うか迷っていましたが、いつものように全力でやろう、と」

2人は住まいが近所だ。東京グローブ座へのアクセスでは、江村選手の家族が運転する車の後部座席に2人並んでいた。

優勝と準優勝に色分けされた帰路の車内では、初の試みとなった東京グローブ座・決勝が話題となった。「あの舞台に立てて良かったね」「舞台感があったよね」

江村選手によると、東京グローブ座は後方にいる観客の顔まではっきりと分かる、選手はすごく注目されていると感じる、これまでなかった環境。試合の様子はインターネットのライブ中継で国内外に伝わり、会場外からも大きな反響を呼んだ。

「ライブ中継のおかげで、久しく会っていなかった中学時代の友達や懐かしい人たちからお祝いのメールをもらいました。びっくりして、うれしかったです」



決勝の試合会場となった東京グローブ座(代表撮影)

「スクリーンに表示された心拍数も観客の皆さんの目も気になっていましたが、頑張ってみないようにしていました」

研ぎすまされた集中力も勝因のようだ。

フェンシングを始めたのは、父が主宰するフェンシング教室へ通うようになってから。父・宏二さんは中大出身で1988年ソウル五輪代表選手。北京五輪では代表監督を務めた。

兄の後について教室で遊んでいるうちに、マスクをつけ、剣を持つようになった。小学校2年生の頃だった。母・孝枝さんも元フェンシング選手。チャンピオンを決める決勝の観客席には家族がそろっていた。

当初の種目はフルーレだった。サーブルへ転向したのは、サーブル大会優勝景品が大好きなキャラクターのパズルで、それが欲しくて出

場した。見事に優勝。

以来、攻撃にサーブル特有の「斬る」が加わり、「突き」と「斬る」を使い分ける。攻撃有効面はフルーレより広く、両腕、頭部を含む上半身だ。

日本協会の強化選手に選出され、練習場は東京・北区のナショナルトレーニングセンター(NTC)へ移った。各競技のトップレベル選手が国際競技力向上を目指し、集中的・継続的に強化活動を行う場所である。2008年1月の設立以降、各競技において好成績を挙げ、その存在が際立っている。

江村選手は中大、学内のスポーツ振興・強化推進事務室、フェンシング部などに感謝する。

「事務室の方々や皆さんに私の練習環境を理解して頂き、すごく応援して頂いています」

中大の中長期事業計画「Chuo Vision 2025」の冊子、スポー

表紙の人

ツ振興事業ページには期待のアスリートとしてカラー写真付きで紹介されている。

登校時は物静かな法学部の3年生。学食棟「ヒルトップ」で友人とランチを楽しみ、広大なキャンパスを歩いている。「空がきれい」と豊かな自然環境に癒される。

目指す2020年東京五輪まではフェンシング中心の生活となりそうだ。

2016年リオデジャネイロ五輪は代表選出に4票足りず、バックアップメンバーに回った。先の全日本選手権では前年決勝の1点差敗北からジャンプアップした。

「もっともっと、いいプレーができると思います。最強でありたい。東京オリンピックでは個人と団体に金メダルを獲りたい。そのためには、まず団体メンバーに入らないと。代表メンバーに入るの簡単ではありません」

団体戦は2017年・台北(台湾)ユニバーシアードで金メダル。2018年

全日本選手権で優勝。関東学生選手権では中大チームで頂点に立ち、チームプレーの醍醐味に魅せられた。同僚・向江選手もユニバ、全日本、関東学生制覇のメンバーだ。

国内ランキング1位(1月19日現在)の江村選手は、現在でも日本代表(8人)メンバーだ。それを過去の

ものとして、大願成就へ向けて、一つひとつ確実に、を心掛ける。

キーワードは「一歩前へ進む」。フェンシングの公用語ともいわれるフランス語で「マルシェ」と言う。東京五輪の競技開始は2020年7月25日・土曜日。その日、その時刻まで、マルシェの毎日だ。



中大に門戸開放のフェンシング教室

中央大学の生涯学習講座、『どなたでも学べる中央大学クレセント・アカデミー2019』にフェンシング教室があり、「基礎から応用まで楽しく学ぶフェンシング」を勧めている。ガイドブックには、こう記述されている。

『ヨーロッパの戦術を発祥とするフェンシングは、近代五輪第1回大会から正式種目として採用された歴史あるスポーツです。「剣で相手を突く」という攻撃的な格闘技であると同時に、礼儀やフェアプレイ精神を大切に競技で

す。(中略)数多くの五輪代表選手を有し、我が国のフェンシング界を牽引してきた中央大学フェンシング部監督・コーチが基礎から最先端の技術まで安全に配慮しながら指導致します(後略)』

考える 強くなる

中央大学フェンシング部・富田隆監督に聞く、強化の最大ポイント

—2018年シーズンは5月から12月の全日本選手権大会まで主要試合で優勝14回、中大フェンシング部の強さが大きな話題となりました。日頃の指導で重要視しているポイントは何ですか

「自分が強くなるためには、『どんな練習をすればいいのか』を自分で考えて、工夫することを意識付けています。人が見ているから、コーチや監督に言われるから練習するのではなく、自主自律の重要性を伝えています」

「中大フェンシング部は歴史もあり、志の高い学生が入学してきます。努力する学生が多いです。大学は人間形成の場でもありますから、フェンシングを通して社会で通用する人材を育てることも、我々の使命と考えています。自分の意見を持って、発信力がある人材が求められる時代ですから、その意味でも自主性を重んじています」

「また、フェンシングが強くなるためにも、『考える』という作業が極めて大切になります。相

手の動きを想定して仕掛ける、また、裏の裏を読むといった駆け引きが必要になるので、思考停止では強くはなれません。本人の意識次第でぐんと成長する選手がいます。勝ちにこだわる。自由時間に何をするか。それらがパフォーマンスアップへとつながっていきます」

—日本チャンピオン・江村選手の強さは

「意志の強さでしょうね。2020年東京五輪に出場して勝つという大きな目標に向かって日々努力しています。モチベーションを高く保ち続けることは難しいのですが、彼女はそれを強い意志を持って続けています。心・技・体と3つそろっているのが江村選手で、もっともっと高いレベルを目指しています。けがをして団体戦出場が危ぶまれたときも、勝つために、中大のために、絶対出場します、と。勝ちにこだわる、意志の強さを感じました。素晴らしいアスリートです」



2018年度
中大フェンシング部の主な戦績

全日本選手権個人戦 (12月9日)

👑 江村美咲選手 女子サーブル初優勝



女子サーブルで優勝した江村選手 (代表撮影)

向江彩伽選手 女子サーブル準優勝

上野優斗選手 男子フルール準優勝

全日本選手権団体戦 (12月23日)

👑 女子サーブル 優勝

男子サーブル 準優勝

全日本学生選手権 (インカレ 11月18日)

👑 江村美咲選手 女子サーブル初優勝

向江彩伽選手 女子サーブル準優勝

👑 渡邊裕斗選手 男子サーブル初優勝

👑 男子サーブル 団体戦優勝

関東学生選手権 (10月25日)

👑 江村美咲選手 女子サーブル優勝

向江彩伽選手 女子サーブル準優勝

👑 古俣 聖選手 男子エペ優勝

👑 渡邊裕斗選手 男子サーブル2連覇

👑 男子サーブル 団体戦優勝

👑 男子エペ 団体戦優勝

👑 女子サーブル 団体戦優勝

全日本学生王座決定戦 (6月10日)

👑 男子エペ 2年ぶり優勝

👑 男子サーブル 2連覇

関東学生連盟リーグ戦 (5月22日)

👑 男子サーブル 1部優勝